

インターバンクの声（2015年5月29日）

2002年以来となる124円台の高値を付けたドル円だが、今日29日が週末と月末が重なっていることや、来週末の米雇用統計発表が近づいていることもあって、これ以上円を売り続けることには少し躊躇いが始まるかも知れない。ニューヨーク時間に発表された米新規失業保険申請件数が2週連続して市場予想よりも増加したことや、G7財務相・中央銀行総裁会議に出席している麻生財務相の「足元の円安方向に、ここ数日間を見れば荒い動きがある。市場の動きを今後とも注意深くみていきたい」発言などが気になっているディーラーも多くなっている。年末方向を展望すれば125円や130円レベルを照準にしている見方も少なくないが、先週末からわずか一週間足らずで4円近くも円安が進んだとあって、今週末や週初一気の125円突破は早すぎるように感じる。もっとも、ニューヨーク市場に戻ってから発表される米1-3月期GDPの改定値が驚くような結果にでもなれば話は別になる可能性もあるが、取り敢えず東京時間は27日の夜以降何度となくドルが支えられた123円50銭前後が引き続き固いのかどうかを確認するのではないだろうか。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。